

東海

301-54

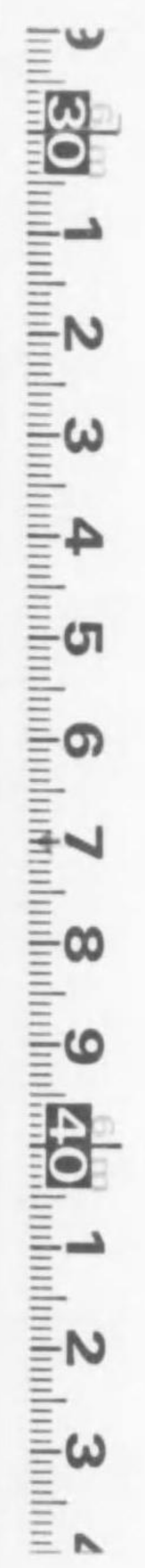


301

54

石本記五

龜山
山抄



始





東海名所記五

龜山 山柳

龜山より実地苑まで一里半

右の方に城あり。宿町の中は城代大目守ゆ

那の麻 左の方美の入口まで沙川あり

ゆらゆらと村 実川 徳の町村 右の方

妙羽の羽山とて山あり。若

あり樂河浜くうとみか

猿人のあがりまの龜山

こらら山とつらぬり

実代宿のつらうら。左の方にたつたを神

ゆらゆらあり

ろひ。越々そのつく。後人として

町とつぎなるくしな城乃後あり。一休村

冷麻川乃多い。たは法皇。あつひいあり。

みいお持とるふ。とかのぬれぬい。つねを

あり。八十瀬乃川とつらうい。新勅撰

後成乃なり

ありおとつらうい。おのむさひ。か川

やうせの。曲み月ぬのうら

新後撰乃定あつたのなり

えぞる世それやまか川宮あん

ありすそくまな花のうけりか

よ玉葉まきあは條子旧釈王群のさうりか

ていみあひけふあき

せいか川やうせのむらひのせ

そくまな花のむらひ

おあ知あひりりきひせの男

ほれゆく八十瀬乃はむさう

あありのむさうか川

あひり村

新巻

まのいあき

ありていふ



修善寺の坂の下よりち山く二里ま
 そのくみの坂は一歩も川あはれて。宿の川をま
 づつてまてわりせり。九ヶ年一いざ義者あま宿の宿の
 うらばまき大町あり。山くづまてはあはれづ。人か
 りく後あきづり。そ何より今此宿の坂より七
 八町りくま利にわり。宿のうらまは宿ありあり。
 次此宿より坂はゆるゆる。坂のうらむ八町あり。
 坂口のたのこちうわり。せよしあり。この川。
 この西神にた来きあとして。天口を林の母
 ありとらやます。ゆりつうあり。そのくみ天てん津つを
 登のぼる。たののりまより。さびやくまれ。新あたら神かみのま
 とわてあ修しゆ善ぜん寺じとして。伊勢のあまよりあり。



あうまをたてして茶をわりのまのあまをまよひつり
 て来わりの伴務迎に乃國さういあり
 海に 赤の下まゆの小島とよらそらり 湯のま
 ○蟹は 赤まゆの塔のうらまわりのたふらり
 ひらふあまの妖性わりのままやまのま
 であのまの金解信て人まをまのまのまの
 妖性わりの信てまのまのまのまのまのまの
 のまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 く。あまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 てまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 横のまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

舞はあまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 とまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 してまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 坂のまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 白川橋のまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 鬼神とまのまのまのまのまのまのまのまのまの
 生野 茶をわりの館とまのまのまのまのまのまの
 幾那わりのまのまのまのまのまのまのまのまの
 てまのまのまのまのまのまのまのまのまの

迎にまのまのまのまのまのまのまのまのまの

新古今は西行のまのまのまのまのまのまのまの

新古今は西行のまのまのまのまのまのまのまの

鈴森のうしろに世はまういありすそ
 ついでありゆく祓りかきん
 拾遺和歌集よ衆宮女師乃乃
 世よみまはしきもこえたりやまが山
 ひく乃今よさういやわらん
 樂の泳ぐくぞよみけ家
 ありあびてそれどもがまのねあがり
 こまとたんと人やまらん





尺山
 廿二ちありの石垣わたりやうりやうり千載業
 了家東季徳頼長の子
 うささの影り三上れ山の枝ひさや
 やとよらうの代のちかへん
 これ山より柳枝とよふあり又玉葉葉葉人不知のち
 ちかしの浦や町敷てとよらうのほささよ
 みうらうの山をむくゆ
 ぬり舟村
 尾の村 茶やわり

夕の影をたづむにるるさうぞまの神
 宿の入りたるれの遊あり。志乃くこにたわりの妻
 濃河をたりや山はゆ。 明神あまのり
 やうく遊をこまわりたろくこまゆけい。夫格あ
 ゆいゆくまのりい。ゆいのりて。横こく
 大津まろ。妻よ歩とゆけむ勢田ろくまある。
 樂の海やまや。夫格あめてあまのまはれ
 りと二里づりの遊これども。あまのまろく
 今日歩ろてくろくそて勢あへまろ。遊を
 の山南のあまの遊これこれあま。草津の
 娘が餅包あり樂の海
 飛つこくつろく津のくろく餅

志乃くこにたわりの妻
 濃河をたりや山はゆ

野の影をたづむにるるさうぞまの神
 宿の入りたるれの遊あり。志乃くこにたわりの妻
 濃河をたりや山はゆ。 明神あまのり
 やうく遊をこまわりたろくこまゆけい。夫格あ
 ゆいゆくまのりい。ゆいのりて。横こく
 大津まろ。妻よ歩とゆけむ勢田ろくまある。
 樂の海やまや。夫格あめてあまのまはれ
 りと二里づりの遊これども。あまのまろく
 今日歩ろてくろくそて勢あへまろ。遊を
 の山南のあまの遊これこれあま。草津の
 娘が餅包あり樂の海
 飛つこくつろく津のくろく餅

まるくうと。ほまほまほつそりのみちをやらせり。
 ほまほまほ。竹ノブヤノゆまうけ入のいて。
 まろくゆまほひぬ。その時ほまほ陣ノ穂竹
 のちやれまほ。ろふりあてあろ人あく敷り。
 ねんより。東の軍兵の部まほあろのり。
 おせぐり。あろすう法と格回よの格をりて。
 おろのよせと。殺陣しそほまろのせりも
 とびくまろのりや



大徳のふりあり。そのついでに石山寺の塔なる。べきは
 新ちのり良弁傍葬の草創あり。そのついでに
 半天宮。東大寺の大師殿とて建立ありける。
 金銅十六丈此盧遮那佛とて造りたるの塔の
 料をて黄金とりのりあり。良弁のあまのりて湖邊
 まういてまういへばめぐりてあまのりて一人の
 まういへば鹿のひて英とつる。良弁のまういへ
 海にこの山にこれ觀音の具地とて金あり。ま
 けりて持念一人とてまういへばまういへ
 あり。龍の比良乃明神ありき。良弁のまういへ
 持念一人あり。この山に金あり。觀音のまういへ
 ろりへくまういへ。それゆへに初めは眞刹なり金と

きそよりつら。こまのりて。大佛のまういへ
 ありのりも也。されのりまういへこの觀音のまういへ
 とも。石山寺は草創一人あり
 又上東つ隈乃女宗は紫木部。石山寺の觀
 音のりまういへ。八月十八日乃月湖邊
 まういへ。水觀觀と成觀。自然智
 とゆへに深中物鏡とつる。眞磨明石の卷のりも
 書つてゆづりまういへ。乃良弁のまういへ
 いかれまういへまういへ
 小徳のりありまういへ。湖邊の
 幸のりありまういへ。乃良弁の
 もあまのりまういへ。乃良弁の

はうりまの一千種乃係保佛也。中比らるらりくま
とらゆきて返概よるびいとわの所なきりては
那とてめく。再興一ゆりのか乃直心の所作乃
係保。まうーうゆりめらゆりくく。片田千種
とて。ききとみ。りてちやうらや
片田乃すまの。白鬚。良。お松あり。又あすり
中人はさわりの尾砂。大溝とふ不也。今津海津
ハけあうまねぞみす。

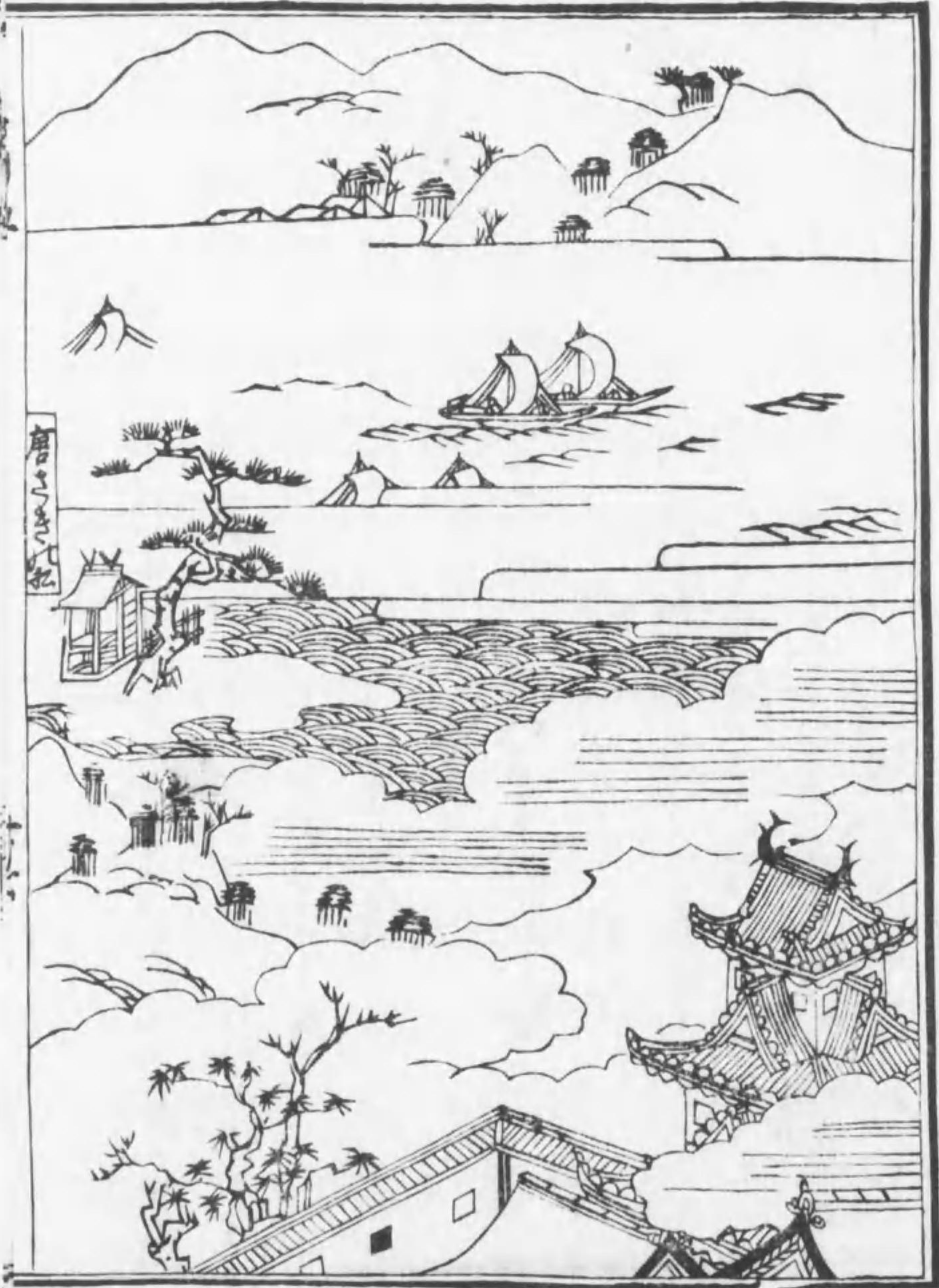
湖多乃東。右の方にそへり。長田寺の観音
あり。善根の観音は山の中。あり。仲はまゆり
こそ沖のゆかり。そのあかこふ作生。ゆかり。は島
はうり。景行天。是れ河よ。まればゆりては島あり。

崎乃由。舟。天あり。日す。行基やうの乃作
あり。島はこま水精。たりののあまなむとて
まよらうふたしき。鎌。あまのつとま。莫本
4のかりん地。り。り。ぬやま。月海中は
らんせ。まもゆり。ま。海。い。い
あまなむ也。

うせり。匡。う。け。あ。ま。れ。い。や。す。志。那
乃海。又。蓮乃名。不也。蓮乃飛。双。あ。り。か
ま。り。の。あり。の。り。る。也。志。那。乃。海。了。双
氏。あり。は。蓮。飛。嘆。ま。り。こ。つ。り。ま。ま。ん。さ。り。ま
あ。ま。れ。は。格。の。ら。り。い。や。り。り
何。り。ん。は。ま。さ。む。り。き。月。の。り。り。は。ま。り。

海

海



ねりて村 ありては也 ねりの内よ三筋くをまれ
 ころちろくたの海がう 備所 中なるのたのあつて
 ありて大津一わち

大津より東へて三里

ひらき大智天宮の所より大津の東へて三里。志賀の郡とつらこ思あり。何れ集は伊勢の郡とつら

凡そふれそわの海にわたりて

あふふのくまのくまのくま

千載集は漢人しるすの事

伊勢やあきの郡のわきありと

ひらきありて北山さうりわき

又新古今は法性寺のたをえぬ大津寺

さ信や志賀のくまのくま

大津の東より乾のくまのくま。聖徳寺あり。教侍和尚の位あり。他は。智隆大師の草

館あり。天智天武の統。此三帝の誕生は。大津の

此寺の井のくまのくま。此寺のくまのくま。此寺の

新と名をしるす也。

町にあり。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまの

浦のくまのくま。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまの

坂にあり。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまの

下石橋はあり也。

大津の儀殿や町と名をいふ町と名をいふ。此のくまのくま。其のくまの

乃明神あり。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまの

まはのまは法はあり。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまのくま。其のくまの

今や由人申月の約

千載集より多原の乾永明長久秋

わが世の月も涙もやまらぬ

今世の事よ

冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ
冥の明神の輝をてばりし事よ

世の中いれそくをわたりぬ

えもよやもそくをわたりぬ

と詠のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り
大層のうらなをの唐り

そや輝九の琵琶和琴此
あしりしと也故を記す
新後撰業の源の流をうす

後世の事よ

冥の事よ

玉葉業の事よ

とよしとやれさゆらん

冥の事よ

又新後撰業の事よ

神もてせらるる事よ

国や候の事よ

301
54

印行三百部之内
第 號

昭和十一年七月廿五日印刷
昭和十一年七月廿八日發行

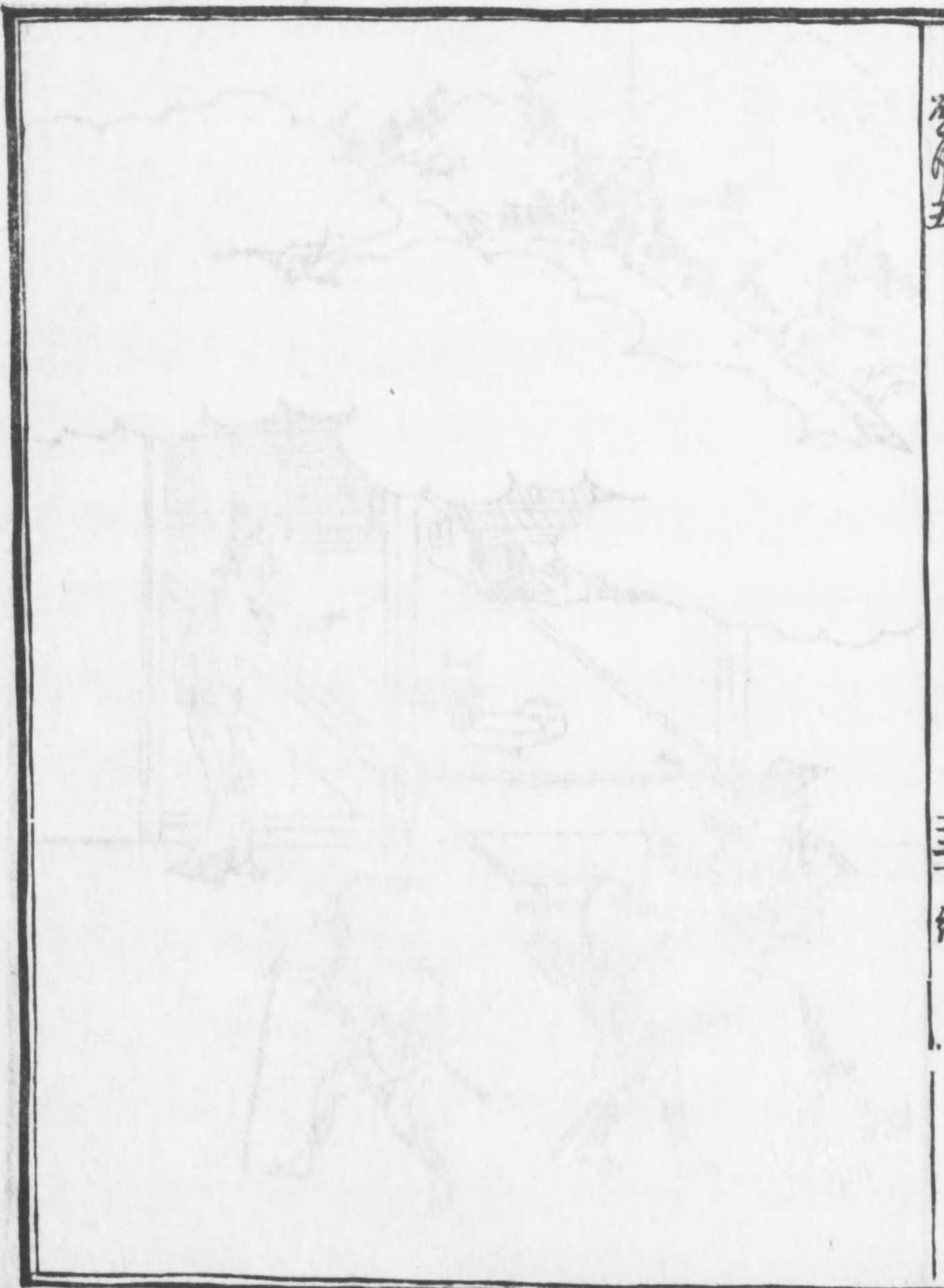
第九期
第廿一回

繪畫雜誌

非賣品

東京市牛込區富久町八十四番地
編輯發行所
山田清作
大塚誠
阿部鍋五郎
池上幸二郎
製本者
東京市牛込區富久町八十四番地
發行所
米山堂

電話 三三〇九



三〇五

三〇六

終